

## 令和元年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立沼津視覚特別支援学校 P T A
学 校 名	静岡県立沼津視覚特別支援学校 <input checked="" type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input checked="" type="checkbox"/> 高等部(分室)

### 1. 使用状況

寄贈物品名	ゴールボール用 ゴール
使用学年及び人数	中学部、高等部の全学年及び施設開放による外部団体
使用頻度	9月末から2月末まで設置、11月末までは週3回体育の授業で使用
使用状況	<p>常時設置できないため、9月末から2月末に本校体育館に設置している。体育の単元として行なう9月末から11月末までは中学部高等部の全員が週3回の体育の授業で使用している。</p> <p>施設開放で本校体育館を利用する視覚障害者のゴールボール競技チームが、月に一度程度、利用している。</p>
物品の使用による変化や効果	<p>今年度はコロナウイルスのために中止されたが、例年11月中旬に中部地区盲学校ゴールボール大会が実施される。寄贈していただく以前は、実物が無い状態で練習し、大会当日、会場で初めてゴールボールの本物のゴールを触ることになっていた。ゴールボールのゴールは、競技をするために極めて重要なランドマークであり、練習時に実物を使えないことは不利であった。しかし、実際のゴールで練習できるようになったことから、ゴールポストを利用した位置確認や動きがスムーズとなり、生徒の動きがよくなった。今後、練習を重ねていくことで、より高度な競技活動ができるようになるとともに、けがの予防にもつながっていくと考えられる。</p> <p>授業以外では、視覚障害スポーツの代表でもあるゴールボールの普及に貢献していけたらと考える。</p>
今後の活用の見通しや課題	<p>今後も毎年必ず授業で活用していく。</p> <p>課題としては、設置が大変なことである。ゴールは、選手が体ごとぶつかったり、とても重いボールが当たったりと、かなり大きな衝撃を受ける。その衝撃に耐える強度を維持するため、とても重い。また、横幅9mと大きく、その組み立て・解体には人数だけでなく時間も必要となる。簡単に設置と片付けができないため、使用時期が限定されてしまう。また、同時に接続部の耐久性がどの程度あるのか、今後も利用していきながら注意していく必要がある。</p>
その他希望や所感など	

## 2. 活用の様子



中高の体育の時間で、ゴールに背中を付けて、コート内の自分の位置と向きを確認し、ポジションを取る練習中。

競技中はアイシェードと呼ばれる、目隠しを付けるため、すべての選手が見えない状況になる。その中で、自分の位置を確認するには、すべてのラインテープの下に入れられた糸を触って確認するか、ゴールに頼るしかない。ゴールはとても重要なランドマークとなっている。



ゴールボール試合形式の練習中。ゴールにボールが入らないよう、体を壁のようにしてディフェンスしている。



ディフェンスでボールをキャッチすると、相手側にボールを投げる。そのとき、自分の位置と向きを確認するため、ゴールのクロスバーに背中を合わせる。この後助走を付けて相手ゴールに向けて投球する。

